

一般会計補正予算に対する反対討論 掛布まち子議員

この補正予算は、澤田市長 3 期目のスタートに際し、市長の市政運営の方針を反映させた大型の肉付け予算となっています。

国のコロナ対応臨時交付金、物価高騰重点支援地方交付金を活用した、市民生活支援策として、学校給食費の 7 カ月間の半額補助や水道基本料金の 4 カ月間の免除、中小企業エネルギー価格高騰対策事業による応援金、住宅用ゼロカーボン推進設備設置費補助、住民税均等割非課税世帯等への応援金の支給などが盛り込まれたことは、物価高騰対策として評価できます。

その他に、带状疱疹ワクチン接種費補助やリサイクルステーションの増設、合併浄化槽設置費補助の増額、照明灯 LED 化など、ゼロカーボンシティ実現と市民要求に応えた新規事業が盛り込まれていることも評価できるものです。

しかし、次の 3 点の予算については納得できません。

①マイナポイント申請等支援事業

マイナンバーカードをめぐるのは、間違った医療情報が紐づけされていた、また病院窓口でマイナ保険証による顔認証が機能しない、マイナポイントが別人に付与されていた等々、次から次への深刻なトラブルの発生で、マイナカードへの信頼は地に落ちたといっても過言ではありません。

その上来年秋に、健康保険証を廃止する法案が可決成立し、不安が一層高まっています。世論調査でも 7 割以上が、保険証廃止の撤回、延期を求めています。マイナ保険証はいったん運用を停止し徹底的に点検を行うべきです。

こんな時に、マイナポイントの付与と引き換えの健康保険証機能を持たせる紐づけ、公金受取口座との紐づけを市民に対し促す予算は必要ありません。

②久昌寺公園整備事業 3572 万 2 千円

昨年度約 4500 万円で、久昌寺の本堂、庫裡のあった敷地を市が購入したのに続いての久昌寺関連での財政投入です。4500 万円での敷地買い取りは、本堂と庫裡を取り壊す費用を工面したい宗教法人・久昌寺からの買い取り要望に応えた、事実上の久昌寺救済策でした。

当時、敷地購入予算の審議に際して、日本共産党議員団は、南側、北側の久昌寺公園の利用者がほとんどない上、周辺は神社や寺が多く存在し田畑の緑も豊かな地域であって、これ以上、久昌寺公園を拡張する必要性は全くないと指摘して反対しました。

今回、3572 万円で拡張整備するというので、久昌寺公園の現在の維持管理状態を確認しましたが、管理不十分で無残に荒れ果てています。利用者が少ない証拠です。3572 万

円もかけて、公園を拡張する必要はありません。

整備後の維持管理費の負担をいたすだけに終わるのではないのでしょうか。公園を整備するのならば、子どもたちの身近な遊び場が不足し本当に困っている、求められている古知野地区の中心市街地でこそ増やすべきです。

③目的別基金への積立の多さについて指摘します。

18 億円余の大型補正予算には、ごみ処理施設建設や新工業用地整備、公共施設整備など 3 つの目的別基金への積立金が計 7 億円余も計上されています。市長就任後、初の補正予算であって市民要求に積極的に応える事業を精一杯盛り込まなければならない補正予算のはずです。

国のコロナ対応・物価高騰支援の交付金を財源として活用する予定の事業費 6 億 6300 万円余と、100%国庫支出金を財源とする 1 億 2800 万円余の低所得の子育て世帯に対する特別給付金を差し引けば、実質の補正予算額は 10 億 3500 万円にすぎません。そのうちのなんと約 7 億円が目的別基金への積み立てとなっているわけです。あまりにも多い積立額であること、市民要求に応える事業費が少なすぎる事を指摘しなければなりません。

ごみ処理施設建設基金は、すでに 18 億円積み立てられています。目標額にはまだ達していませんが、今後積み立てる時間的な余裕があります。新工業用地整備事業基金は、事業開始後にただちに必要となる 5.5 億円の基金額に既に到達しています。公共施設整備基金は今後、計画的な積み立てが必要なのは言うまでもありませんが、物価高騰にあえぐ市民が求める事業を年度当初から存分に行ったうえで、年度末に積立するというのならまだしも、初めから、財政調整基金 7 億円を目的別基金に 7 億円、ぽんと積み替えている、移し替えているこの補正予算には首をかしげるばかりです。

今、解決が求められる切実な問題として、学童保育の待機の解消があります。市長の公約だったはずですが、待機解消のためのハード面ソフト面の予算措置が、補正予算では見当たりません。

他にも生活が困窮するひとり親家庭への支援として重要な、就学援助の基準の拡大・援助項目の拡大。保育園児の給食費負担の軽減、学童保育の第 2 子第 3 子への利用料の減額。水道基本料金の免除期間の拡大や、下水道使用料の大幅な値上げを中止し、値上げを延期するための予算措置、高すぎる国民健康保険税の引き下げなど、やるべきことは山ほどあります。

現在、市には、この間予算化もせずに手元に残したまま活用していない 7 億 2 千万円の繰越金があります。財調と繰越金。自由に使える財源をしっかりとっています。目的別基金にため込まず、物価高騰で生活が大変な市民のために今こそ積極的に使う予算を編成するべきと申し上げ、反対討論とします。